

ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	絶滅危惧 I 類
(環境省:準絶滅危惧)		ミズアオイ科
選定理由	生育地が極度に減少している。	写真(高橋弘)
形態の特徴	茎は短い。成葉は抽水性で、葉柄があり、葉身は円形から広卵形で鋭頭、基部は心形、長さ4-15cm、幅4-15cm。花茎は葉より高く伸び、先に総状花序をつける。花はほぼ横向きに開き、花被片は6枚とも青紫色。雄蕊は6本あり、5本の葯は黄色、1本の葯は青紫色。雌蕊の花柱は1本で上方へ曲がる。	
生態的特徴	湖沼、水路、水田などに生育する。花期は7-10月。	
分布状況	東アジアに分布し、日本では全国にある。岐阜県では県南の南部に見られる。	
減少要因	湖沼などの埋め立てと水質の悪化が考えられる。	
保全対策	生育できる湖沼などの確保と水質の改善。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘